

どんびま

2012年7月11日発行
発行者 椛の湖農業小学校

ナツツバキ

夏椿は沙羅(サラ)とも呼ばれる。平家物語に「沙羅双樹の花の色」と書かれた木である。

しかし、夏椿は日本の代替品で、本物の沙羅は北インド原産で日本では育たないフタバガキ科の常緑高木だそうだ。

ナツツバキの花は朝咲いて夕べに散る。花びらを散らすことなく花が地面にストンと落ちる。その潔さから、平家物語では世の無常を象徴する花として登場したようだ。

夏、清楚な花の咲いた朝のすがすがしさも心地良いが、樹下に落ちた白い花が並び夕暮れの風情がまた良い。亡き母が好きな花の一つだった。ナツツバキの咲く季節になった。 (草)



7月授業日のご案内

●日程 7月22日(日)

受付 9:00~9:30

始めの会 9:30~9:40

授業(畑仕事) 9:40~11:00

火をおこして炊飯 11:00~12:00

昼食 カレーライス、サラダなど 12:00~

昼休み カブトムシの運動会

キャンプの相談・かかし作り 13:00~

終わりの会 15:00~15:15

●服装 作業のできる服装

●持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具

買い物袋、箸、食器、スプーン

かかしの材料

カブトムシ

●締め切り 7月17日(厳守)

☆カブトムシは育てていますか。成虫になっていたら、持ってきて下さい。

☆かかし作りは家族で1体作ります。7月・8月に完成させて、8月に皆で投票する「かかしコンクール」をした後、田んぼの側に並べて立てます。骨組み(3cm角材の十字架型と胴体にするワラ)はこちらで準備しますので、頭部、帽子、着物などは各自で準備、工夫して下さい。

☆キャンプの相談 大人は食事・もの作り・遊びの三つの係に分かれて相談します。

(その間に)生徒さんはキャンプファイヤーでのグループの出し物を相談してもらいます。それぞれ、楽しい案を考えて来て下さい。

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362 (山内総太郎)

～とくちゃんの農小レポート～

新茶の香いはすばらしい

前夜の大雨にかわり、曇天ながらも授業中は天気が持ちましたが、台風・豪雨と各地に被害をもたらしています。今年の天候不順はお茶の生育にも関わりがありました。

- 1 午前の授業。** 予定変更して午前中に茶摘みを行いました。学校廻りの茶垣根では葉の成長が悪く、農場長や先生達の計らいで、他所から株毎切り取って運んで頂き、ブルーシートの上で低学年の茶摘みが行われました。そのあとで葉っぱを蒸して筵（むしろ）の上で手揉みを行い、最後は炭火を使っての乾燥まで体験しました。
持ち帰ったお茶は今一度、フライパン又はホットプレートの弱火で乾燥させて、温めのお湯に入れてじっくり味わってみてください。
- 2 昼食。** 朴葉すし、温野菜、かき玉汁、カブの漬けもの、大根・紫玉ねぎのサラダ、郷土食のほうばすしは何時も好評です。今年もお母さん方にお手伝いを得ながら、800個以上も作って頂きました。酢飯の上に乗る具は、その土地又家庭により違いがあり、それぞれ特徴があります。中でも農小のは沢山の具が乗っており、見た目にも食欲をそそります。初参加のお母さん方には要領が解らず、見本通りには出来なかったようですが、これも勉強かな？
- 3 午後の授業。** さつま芋苗の植え付け、レタス・白菜・大根の収穫。さつま芋は秋に収穫して焼き芋となりますので、日照りに会ったりしないで豊作を祈ります。レタスと白菜は不作でしたので、持ち帰りの中には数が足りず半分に切った物もあります。人参は間引きを行いました。
- 4 持ち帰り。** 大根、白菜、レタス、間引き人参、手揉み茶。
大根は葉付きでした。ビタミンの最も多いのは葉っぱなので、工夫して食べて見てください。刻んだ葉を塩水でサッとボイルして水気を切り、炒めて味を付ければ立派な一品となります。我が家では冷凍で沢山保存しています。また大根は濡れ新聞で包みビニール袋に入れて、野菜ボックスで保存すれば長持ちしますので、是非生で食べて見てください。
- 5 連絡事項。** 7月は案山子（かかし）作りが行われます。農小では十字の木柱と胴の中に入れる藁は支給されますので、あとは一家でアイデアを出して挑戦して下さい。昨年は50体程が農小田んぼの横に立てられ、アマチュアカメラマンの格好の被写体を提供しました。
案山子コンクールが行われ、優秀な作品には賞品がでますので頑張ってください。

～とくちゃんのちょっと一言～

今年も恒例のお茶摘みが有りましたが、初体験の人達は最初は戸惑いがあったようでした。私の子供の頃は、この時期毎晩お茶揉みを手伝わされました。昼間に母親達が手摘みしたお茶葉を夜に蒸して、父親や子供達が一年間利用できる程の量を、筵の上で揉みあげました。最近はボトル茶が人気があり、本当のお茶の香りが薄くなりつつ有り残念に思います。

カテキンと云うお茶に含まれる成分は、切り傷などの消毒に利用する事が出来ますので、緊急の時は使ってみてください。

～あぼ兄の百姓ぼなし～

「グリーンツーリズム」

6月23日土曜日、高山市国府町の荒城農業小学校で第5回の農業小学校交流会が開かれ、椈の湖農小からは20人の先生・スタッフが参加した。椈の湖農小はトクちゃんが「冬の課外授業のもの作り」を発表した。荒城農小の発表は「竹筒パン作り」で、参加者全員で体験するものだった。簡単で美味しく楽しめて、椈の湖でもやりたいという声が多かった。夜は一之宮町の臥龍の郷に移動して懇親会が催され大いに盛り上がった。

翌24日は市内観光をとということで自由行動であった。椈の湖農小は独自に「グリーンツーリズム研修」を企画していた。高山市内、一之宮町・久々野町ではスキー民宿のシーズンオフの事業として農村体験・自然体験などができる所が多い。その現地視察と研修を目的に久々野町の民宿の1軒を訪ねた。このために出張してもらった岐阜県農政部のグリーンツーリズム担当の河尻さんから、日本・岐阜県の事業推進の経緯や県内各地の取り組みについて話をしてもらった。続いて民宿舟石の女将さんの話を聞き、ご主人に畑を案内してもらい、昼食に自慢の料理をいただいて研修を終えた。

河尻さんからもらった資料の中の「ぎふグリーンツーリズムガイドブック」には、もちろん椈の湖農小も「農業を学びながら遊ぶフルコースの1年学校」として紹介されている。平成9年に岐阜県グリーンツーリズム推進事業が始まり、平成14年の岐阜県グリーンツーリズム推進連絡会議設立時から、郡上市や高山市など10市13団体の中に入っていたのだ。あぼ兄は推進委員として毎年の会議に出席してきた。

椈の湖農小はグリーンツーリズムに於いては岐阜県に先駆けていた。

始まりは、農小の開校資金を県職員の友人N氏に相談したところ、県庁の隣の岐阜県農業会議という役所へ行くように勧められたことからだった。N氏が講師をしていた可児市にある岐阜県農業大学から紹介の電話をしてもらって出かけた。所長ほか数人が集まって、珍しい者が来たなという顔で、あぼ兄の話を聞いてもらった。あぼ兄の話し方ではなかなか分ってもらえないと段々不安になり、肝心の資金の話は言えずに帰った。

2・3日して事務局から封書が来た。あぼ兄が話した今西先生の菅井農小の載った新聞や雑誌などの資料が入っていた。あぼ兄の行った時には気づかずについて、後で見つけて早速送ってくれたようだった。

さらに、平成6年3月、椈の湖農業小学校の開校日には加藤次郎所長と岐阜大学の秋元浩一教授が来てくれて驚いた。何か期待されていると感じた。

その年には国では「通称：グリーンツーリズム法」といわれる法律が制定された。岐阜県でも「都市と農村」をテーマにした会議が美濃加茂市で開かれ、400人ほどが集まった。4件の事例発表の中に椈の湖農小も入っていた。会議のコーディネーターが秋元先生だったので助かった。あぼ兄の話し方でも大丈夫だった。調子に乗ったあぼ兄は発表の最後を「これからの都市と農村の交流はグリーンツーリズムだ」と締めくくった。県が取り組む前の実践だった。

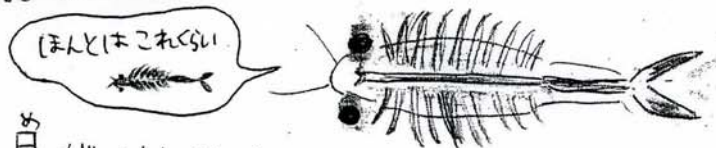
とは言え、岐阜県グリーンツーリズム推進連絡会議設立以来、推進委員でありながら他所の現地を訪れたことは無かったし、椈の湖農小の先生・スタッフの皆さんに話をつなぎ広げることも十分できずにいた。今回の視察研修で初めて他所の現地を見る事ができた。それにもまして、農小の仲間の皆さんと一緒に「グリーンツーリズムについて」、「農小のこれからのについて」話し、考えることができたことが嬉しくて、長いこと背負い込んでいたものを下ろすことができて、ホッとした一日だった。

(次号へつづく)

～かなちゃんの虫日記～

虫日記といいつつも、今月はエビのほなしです。エビと言っても、食べてもおいしくなさそうな、**たんぼ**にすま、**ホウネンエビ**についてです。このホウネンエビを覚えてみたくて去年からがみにT T T活動をしていました。T T Tとはたんぼ・たんけん・たいの田略ですよ。

勝手に他人のたんぼをうろうろしていたらあやしまれると怖い、主にきまじり調査をしていました。その結果、Mさんのたんぼにいとあがり、さそく行ってみました。つくと、夕方でもうろすら暗かったので、体のとうめいなホウネンエビは少しみつけずらかったですが、ありました!!! おなかを上にして、いっぱいある足をひらひらと動かして、



ふいふいふい、とせび泳ぎしていました。

目がくりくりしていて、おなかのあたりはすきとあつた緑色で、しほは赤くて一っつてもかわいい... ♪ 英語では「フェアリー シュリンフ」つまり「ようせいエビ」とよばれているくらいかわいいらしいんです。

しかも、ただ「かわいい」だけでなく、たんぼに現れるとお米が豊作の年になると言われています。ホウネンは漢字で書くと「豊年」です。なぜかはよくわかりません...

寿命は長くない、5、6月に現れ、卵をうばとまもなく死んでしまします。でもまた来年たんぼに水がはられると、卵から子がでてきます! なのでMさんにはずっとあのたんぼでお米を作りつづけていたたまたいです☆